

問題 13. 悪性胸膜中皮腫

症例：75歳、男性。 胸水貯留

検体（採取法）：胸水（穿刺吸引）

染色：パパニコロウ染色

問題：正しいものに○、間違っているものに×を下さい。（VS：バーチャルスライド）

1. VSでは、球状の細胞集塊がみられる。 ○
2. VSでは、多核細胞（2核以上）の頻度が50%を越える。 ○
3. 鑑別診断には免疫組織化学的染色が必須である。 ○
4. 予後良好な疾患である。 ×

解説

75歳という年齢より胸水貯留の原因としては、肺癌、転移性腫瘍、胸膜炎を含めた胸膜疾患などの可能性が考えられる。本例では軽度の炎症性細胞を背景として多数の大型の細胞が出現している。多くの細胞は、多核であり、各々の核は1～複数の核小体を有している。10個以上の細胞で構成される球状集塊が多数出現しており、悪性中皮腫を疑う。悪性胸膜中皮腫の確定診断には生検標本に対して、免疫染色により中皮細胞に陽性を示すマーカーと陰性を示すマーカーを用いて検討することが必要である。上皮型中皮腫と反応性中皮の鑑別にも免疫染色は有用である。根治手術は施行できる病期が限定されており、かつ非常に侵襲が大きく、発症年齢が高齢である場合や低肺機能、Performance status が良くない時には施行できない場合が多く、さらに化学療法、放射線療法による根治は望めないことから、予後は極めて不良である。

原因不明の胸水症例では悪性胸膜中皮腫は常に念頭に置くべき疾患と思われる。

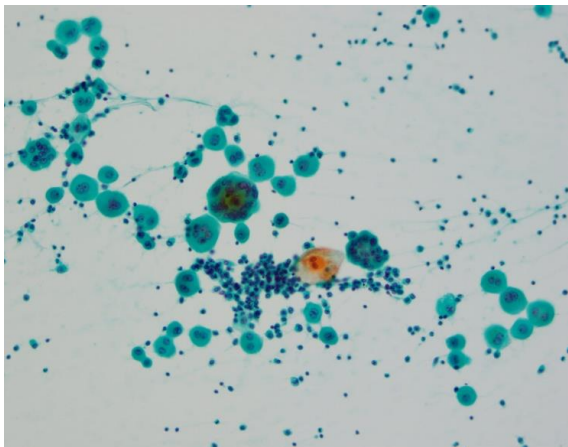


図 1

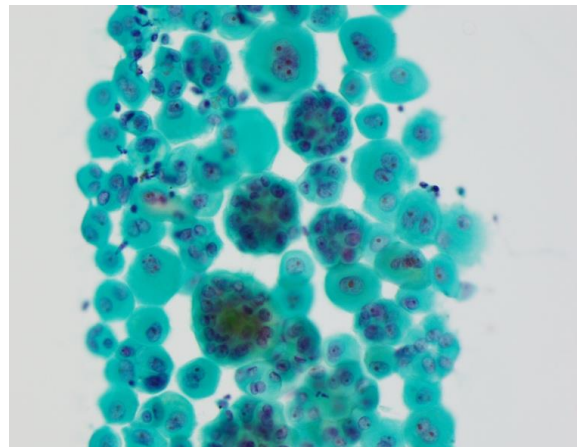


図 2

最終病理診断は悪性胸膜中皮腫 上皮型であった。